

久良岐公園大池では2022年12月から2023年3月にかけて、池内にたまった土砂の除去、繁茂しすぎた抽水植物(ヒメガマ等)の除去工事を実施しています。
池の水を全て抜いたのは1998年以来24年ぶりです。工事の前の2022年12月6～14日にかけて、生き物の専門家と環境科学研究所、南部公園緑地事務所の職員で生物調査を行い、在来種の保護と外来種の駆除を行いました。調査結果を以下にお示します。

① 調査結果

- ・全捕獲数の80%以上が外来種で、そのほとんどが特定外来生物のブルーギルでした。
捕獲した特定外来生物は全て駆除しました。
- ・ブルーギルの次に多く捕獲されたのはフナ類です。ただし、成魚のみでした。釣りのために無断で放流された可能性があります。
- ・フナ類は在来種のギンブナと国内外来種のヘラブナの2種を確認しました。両種の外見での識別は困難とされていますが、大半の個体は便宜的に体高の高低等で判別しました。
今回生態系バランスをとるため、ギンブナの一部と国内外来種のヘラブナを駆除しました。
- ・クサガメは、以前は在来種とされていましたが、現在は江戸時代以降に朝鮮半島や中国から持ち込まれた外来種の可能性が高いとされています。
大池では、交雑・競合が懸念される在来種のイシガメが確認できなかったため、今回はクサガメは駆除せず、残置しました。
- ・ナマズも江戸時代以前は西日本のみに生息していたと考えられており、東日本では国内外来種と考えられています。
ただし、大池では、ブルーギルが多すぎて生態系バランスが悪いため、ナマズは残置しました。
- ・魚食性外来魚のオオクチバスやブルーギルが多いためか、保全回復を目指したい在来種の魚、トウヨシノボリ類とモツゴは減少傾向にあります。
- ・近年横浜では減少しているオオヤマトンボのヤゴが見つかったのは特筆すべき点です。
- ・工事後は捕食魚（ブラックバスなど）の減少のため、アメリカザリガニの増加が懸念されます。今後はモニタリングを継続していきます。

《クラッキィーからのお願い》
在来種の生き物を守るため、よそからの生き物(外来種)や園芸植物、飼育動物、魚等を池に放したり捨てたりしないでね！

② 捕獲作業と獲れたいきものの様子 (2022. 12. 6)



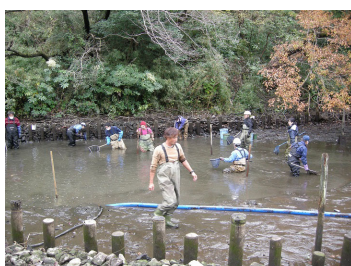
作業開始直前 (10時頃)



水量が減った状態 (13時45分頃)



作業風景 (10時頃)



水量が減った状態の作業風景 (13時45分頃)



在来種の魚：
モツゴ・トウヨシノボリ類



在来種：
オオヤマトンボのヤゴ



国内外来種：ナマズ



特定外来生物：
ブルーギルとオオクチバス

③ 生物調査結果表

※①～③は実際に池に人が入って捕獲(①25人②5人③7人)し、④は罠を仕掛け後日引き上げた。

区分	種名	調査実施日				合計(匹)	処置 (駆除、保護など)
		①20221206	②20221212	③20221213	④20221214		
特定外来	ブルーギル	1,449	24	34	11	1,518	駆除
特定外来	オオクチバス	118				118	駆除
国内外来	フナ類(ヘラブナ)	60	1			61	駆除
外来	カワリヌマエビ属	35	6	53	7	101	駆除
外来 (放流由来)	コイ	27				27	駆除・一部は観賞用に能舞台の池
外来	アメリカザリガニ	17		1		18	駆除
特定外来	ウシガエル(幼生)	3				3	駆除
外来	ミシシippアカミミガメ	2				2	駆除
外来	クサガメ	2				2	残置
特定外来	ハナガメ	1				1	駆除
国内外来	ナマズ	1				1	残置
11 種		1,715	31	88	18	1,852	
在来	フナ類(ギンブナ)	144				144	保護・一部個体数調整のため駆除
在来	オオタニシ	48	9	8		65	保護
在来	テナガエビ	40	5	20	3	68	保護
在来	モツゴ	11		2		13	保護
在来	コシアキトンボ(ヤゴ)	11	4	29	11	55	保護
在来	トウヨシノボリ類	2	3	1		6	保護
在来	オオヤマトンボ(ヤゴ)	2	1	1		4	保護
在来	シオカラトンボ(ヤゴ)	2				2	保護
在来	ガガンボsp	1				1	保護
9 種		261	22	61	14	358	
全捕獲数 (在来種 + 外来種)		1,976	53	149	32	2,210	